

株式会社ケーブルネット神戸芦屋 放送番組審議委員会議事録

1. 日時 平成23年4月27日(水) 10:00~12:30
2. 場所 (株)ケーブルネット神戸芦屋 2階 第二会議室
(神戸市東灘区御影塚町2丁目3番1号)
3. 出席者 10名
【放送番組審議委員】5名(敬称略、五十音順)
<委員長>
新野 幸次郎(財団法人神戸都市問題研究所理事長、神戸大学名誉教授)
<委員>
加藤 隆久 (生田神社宮司)
杉本 貞夫 (株式会社汐見飴本舗代表取締役)
都築 利行 (元福岡ケーブルネットワーク株式会社社長)
新野 幸次郎(財団法人神戸都市問題研究所理事長)
濱野 則行 (信用興産株式会社 会長)

【事務局:(株)ケーブルネット神戸芦屋】5名
長谷川 享 (代表取締役社長)
江崎 真史 (営業局長)
中井 勝章 (営業局長)
西村 朋子 (関西メディアセンター)
柏木 崇 (業務局)

4. 議事内容

(1) 社長挨拶

放送番組審議委員新任の濱野委員を紹介。
J:COMのサービスやグループ全般に関する現況報告。
東日本大震災によるCATV業界、またJ:COM仙台の状況と対応について。

(2) 当社運営状況のご報告

- ①会社概要報告(中井)。
世帯数・・・加入世帯(CATV)134,076(10年12月)
総加入世帯182,696件(加入率22.9%)
新サービスのご紹介・・・J:COM My Style登場(10年6月～)、
J:COM WiMAX登場(11年2月)、
J:COM PHONEプラス登場(11年4月)

J:COM TVラインアップの追加・・・HDチャンネルサービス対応、
J:COMオンデマンドで3Dコンテンツ配信
「J:COM TV My Style」見放題パックを拡充

②コミュニティチャンネルについて報告(西村)。

新編成と地域に密着したコミュニティ番組制作について報告。

- ・ 2010年組織の再編を実施。神戸芦屋・神戸三木・宝塚川西局エリアを芦屋事務所でカバー。現在4人で制作。
- ・ 芦屋事務所で制作しているの番組
「さりげに1週間」・・・2010年10月よりリニューアル。毎週水曜日更新。23分
情報トピックス・エリアに特化したトレンド情報、生活情報、生田警察からのお知らせなど
「ココカラ」2011年3月までは「ちよつと一杯」と「tectec」で23分。
4月よりリニューアル。街歩き+視聴者投稿のVTRを放送する(パブリックアクセス)番組。月2回更新。23分
- ・ J:COM 関西エリアの共通番組について
2010年7月より「8時です！生放送！！」をリニューアル。
その他、全国統一の番組「つながるセブン」も月～金まで生放送。
- ・ 「とことん J:COM デー」を実施。(2010年は6月、10月2回)
専門チャンネルの無料放送。
- ・ 東日本大震災に関しての対応について
当日11日～16日(月)18:00までウェザーニューズに切り替え。
「8時です！生放送」は18日まで放送自粛。
14日(月)より「つながるセブン」で、J:COM 災害募金のお知らせ、ライフライン情報などを放送。
18日(金)～関西MCからスタッフを仙台に3名派遣。「8時です！生放送」「つながるセブン」放送内で、仙台の状況と関西での支援の取り組みを配信。
全国展開で「がんばろう！日本」の応援メッセージCMを制作。6月末まで放送。
- ・ 現在放送中の番組を視聴。

(3) 質疑応答

<コミチャンについて>

問1: 神戸には地域の催しや美術館や博物館などで行事がたくさんある。今後何が行われるのか「告知板」的に放送できないか。

答1: 現在も実施しているが網羅はしきれていない。多くの情報が流せるよう検討する。

問2: 北区で「小学校訪問」の番組があったが今はない。大変人気があったがまたできないか。

答2: 他の区とのバランスを考えながら検討する。

問3: NHK「家族に乾杯」などを見ていると素人が面白い。一般の方をもっと紹介する番組を。また歴史散歩や神社仏閣紹介などは地域の方が見ても関心がある。

答3: 市民の方を取り上げていきたい。番組作りの参考にする。

問4: 阪神淡路大震災時にはCATVが活躍した。今回の東日本大震災のような災害が発生した際にこそ地域に対してコミュニティチャンネルの効力を発揮できるのでは？

答4: 災害時についての対応については協議している。情報発信の方法を模索。

問5: 経営的に大きな課題を抱えていると思うが、広告についてはどうなっているのか。広告も地元の活動と密着して考えることが必要では？

答5: 通販番組などの収入がある。地域との連携については参考に。

<その他>

- ・ガイド誌は非常に立派だが、見づらい。特に番組表。

- ・KDDIとのビジネス連携について

- ・「感動を生む」という言葉が、すべての番組のキーワードになるのでは。

- ・番組が多すぎる。「人の心に火をつける」ような番組が「これだけは見ないといけない」というものになる。そういった番組の放送を求む。

以 上